

2007年度の検査室スタッフは前年度2名の退職に伴い、済生会熊本病院からの出向者1名と10月から新たに1名を雇用し、検体検査3名、生理検査3名の計6名であった。

2007年度は検査室のチームワークの向上を図ると共に、検査室体制の将来像を具体化し、これに向けて1年目の教育計画をスタートさせた。またリアルタイムな情報の伝達と共有、及び問題解決のために毎日の朝礼と、適宜必要な時のミーティングを昨年度に引き続き実施。その他、ワークライフバランス推進の一環として有給休暇及び代休の消化率を高めると共に、これらを利用した自己研鑽の機会を増やすべく努めた。

【検体検査】

1. 次期検体検査システムの検討と検査機器の整備計画

一昨年度末に導入した検体検査システムは、検査業務の効率化と省力化、臨床データ管理と結果報告の迅速化に貢献しているが、次年度の電子カルテ導入計画に伴い、次期検体検査システムと輸血管理システムについて検討を開始した。また2007年度から向こう3年間の検査機器整備計画を作成。これに沿って2007年度は血球分析装置、血液凝固測定装置の更新を行った。

2. 感染管理

細菌培養結果を集計処理し、週報・月報・半期・年報と医局並びに院内感染対策委員会へ提出し、感染症対策の資料とし、別途感染性胃腸炎の発生状況の統計情報も併せて、適宜院内メールにて配信している。ICT活動の支援など院内感染対策に役立てていきたい。

3. 情報の提供

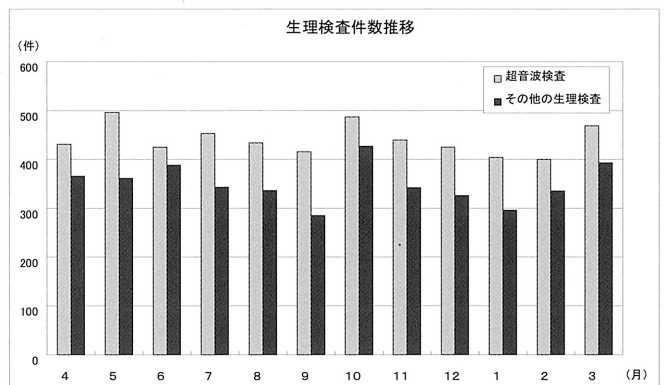
NST回診のために低栄養状態の指標を、高脂血症のデータと併せて抽出し、関連部署（病棟・栄養管理室・リハビリ部）に報告を行っている。ICT回診においても検査データを抽出し、回診前日に報告を行っている。

またDM教室では前年度に引き続き検査技師も講義に参加している。

【生理検査】

職員退職のため、2007年度は職員1名減体制での運用であった。超音波検査は昨年度より検査機3台体制での対応が可能となり、外来患者の検査待ち時間短縮に寄与しているが、更なる待ち時間の短縮を図ると共に検査数増加に対応するべく、午前中の検査枠の確保のため病棟超音波検査を午後からとする運用に変更した。このため職員数減にも関わらず、検査数は昨年度を上回る事ができた。

その他、OP室での泌尿器科医師の経直腸超音波検査介助を行い、前立腺生検やTUR-P術中の前立腺容量評価など術前・術後の検査や、その他術中エコー検査、肝生検、PTCD等にも積極的に対応を行っている。



【資格取得・学術活動】

2007年度は日本超音波医学会認定超音波検査士試験に、血管領域1名が合格した。

また前年度に引き続き1カ月に1度、腎泌尿器カンファレンスを開催した。

【今後の課題】

開院から5年目に達し旧国立病院からの譲渡機材等も老朽化している。2007年度からの整備計画に沿って順次更新していく必要がある。また、次期検査システムも引き続き検討していきたい。加えて、検査室の目標像に向かって新規採用者を含めた技師の育成に力を入れていくことが最大の課題である。

検体検査(病理検査を除く)入院外来別件数推移

